

2024年も残り1ヵ月を切りました。今年の干支である甲辰は「春の暖かな日差しが大地の全てのものに平等に降り注ぎ、あまねく成長を助ける年」だそうですが、みなさんにとってはどのような1年でしたか。さて、今年最後のカスタネット通信1は先月号でお知らせしたとおり、学会での発表報告です。

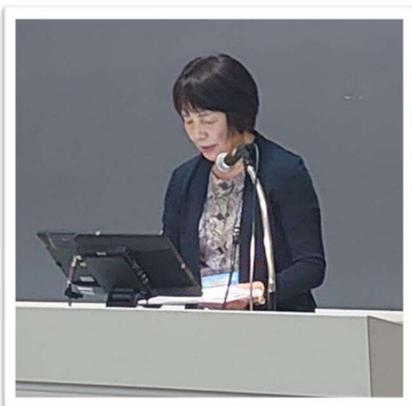
## 日本聴覚医学会・学術講演会報告 その1



去る10月24-25日、第62回日本聴覚医学会・学術講演会が池袋にある帝京平成大学の学舎を会場に開催されました（帝京大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科主催）。この学会は耳鼻咽喉科医師を主体に、言語聴覚士、特別支援担当教員、認定補聴器技能者等で構成され、多職種の立場から、聴覚、難聴、補聴、難聴療育、聴覚リハビリテーションについて、基礎研究から臨床まで広範囲に意見を交わすことのできる貴重な場です。この領域は日進月歩の補聴器・人工内耳とその周辺機器、急速に進む高齢化や小児難聴の療育環境多様化などを反映して、毎年、新しい情報が満載で、出かけていくと、クリニックの臨床においてもたいへん勉強になります。



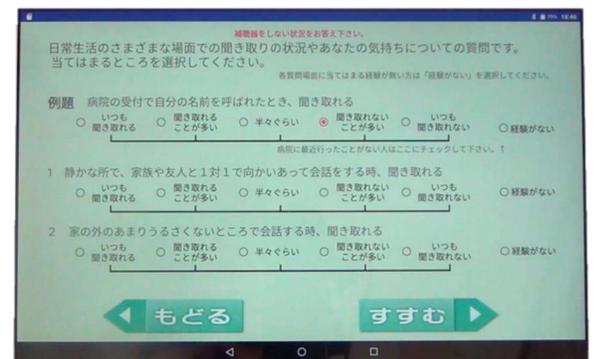
会場前の看板



『補聴外来における質問紙による聞こえの評価－補聴前後の変化と課題－』と題して、「きこえについての質問紙2002」が補聴器適合の過程でどのような意義をもつかを、データをもとに明らかにする目的で補聴前後の結果を比較し、発表しました。

質問紙は、補聴外来で試聴前と自分の補聴器を決めて約6か月後の時点で用います。日ごろ聞こえにくさをどの程度自覚しているか、気持ちや人間関係への影響はどうか、聞こえずに困った時どうするかを23の質問への回答（1～5のスコア）で評価します。聴力検査では測れない難聴の実態を、個々に探れる点が重要です。今回の分析対象は89例、質問紙を実施した補聴前後の間隔は301.7日（約10ヵ月）でした。

結果は、聞こえにくさと心理社会的影響の感じ方が補聴後、明らかに軽減し、**補聴器の調整や装用支援が概して妥当であった**と示されました。一方、補聴器を使っても聞こえにくさを感じ続ける例が残った点、および、コミュニケーションストラテジーすなわち聞こえにくさへの対応策が補聴後活用されにくく、特に高齢群でその傾向が明らかだった点が、今後解決すべき課題と示されました。補聴器適合後も、聴力と機器の管理とともに、聴覚リハビリテーションの観点で支援を長期的に継続することの重要性を、改めて認識させられる結果といえました。



質問紙はタブレットを用いて実施します





私(ST高橋)は、初めて学会発表をしたのでその報告をします。今回参加した日本聴覚医学会総会・学術講演会は発表時間に対して質疑応答の時間が比較的多く設けられており、研究発表に対して様々な討議を行うことに重きを置いています。研究発表に対して直接質問や意見をもらえる貴重な時間です。学生時代から研究していた内容を発表したのですが、過度の緊張で頭の中が真っ白に…頑張って勉強してきたことも思い出せず不甲斐ない状況で終わってしまい、自分の知識不足を痛感しました。やはり蓄えてきた正確な知識は自分の力となり背中を後押ししてくれることを改めて実感し、日々の臨床内での技術面を磨くと共にその土台となる知識を蓄えていくことを目標とすることにしました。

話は戻りますが、今回「**補聴器の両耳聴効果の検討**」という演題を発表したので、その内容を少しご紹介します。

一般的に健聴の人は音を両耳で聞くことで**両耳聴効果**という効果が得られています。例えば、音が大きく聞こえる「**両耳加算**」や音のする方向を把握できる「**音源定位**」などです。過去の研究においても、補聴器を両耳に装用する効果について検討されてきていますが、今回は近年人工内耳や人工聴覚器の評価にも用いられてきている日本語版『**The speech , spacial and qualities of hearing scale(SSQ)**』という「**会話音聴取**」や「**音の立体感**」、「**音質**」を自覚的に評価できる質問紙を用いて検討しました。

対象者は成人の両側性感音難聴の方38名(両側装用30名、片側装用8名)です。上記の方に日本語版SSQを回答してもらったところ、**片側装用の方よりも両側装用の方**で以下の質問項目で有意に得点が高く聞き取りが改善していることが分かりました。

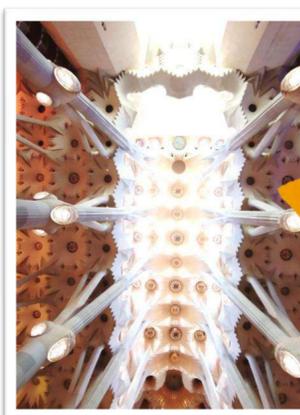
- 騒音下での聞き取り：例) テレビが付いている部屋、混雑したレストラン
- 音源定位：例) 音源が近づいているのか、遠ざかっているのか、音源が思っていた場所にあるのか、それを把握できるのか
- 車内環境での聞き取り：例) 運転している時、助手席に座っている時

今回の研究では、日本語版SSQを用いた場合でも**補聴器の両耳装用による両耳聴効果**が得られていることが明らかになりました。しかし、今回は研究期間も短く質問紙の回答数もそれほど多くないため、得られた結果にも多少偏りがあることが考えられます。そのため今後も引き続き研究を続け研究結果の精度を高めていきたいと思えます。

## クリスマスリース



オギジビの院内装飾はクリスマスに変わりました。ぜひ見ていただきたいのは、ST室と聴力検査室の扉に飾ったリースです。表面に写真も載せました。白い部分に使用した折り紙は、昨年訪れた「ガウディとサグラダ・ファミリア展」(カスタネット通信2023年9月号)で購入した友禅和紙おりがみです。折ると柄が見えにくくなってしまったのですが、きらびやかな色合いがクリスマスシーズンにぴったりだと思いました。



聖堂の  
ヴォールト紋様



栄光の正面  
螺旋階段紋様

左の折り紙は、聖堂の天井をイメージした柄ですね。右の折り紙の“栄光の正面”は未完のようですが、完成予想図でしょうか？

それでは皆様、よいお年をお迎えください。

